

主張

各校長の学校経営を支える校長会

久保好寛



この度全日中の事務局から「主張」の原稿執筆依頼を受けました。この原稿を書いている今は十二月です。私ごとで恐縮ですが、定年退職まであと三か月です。私は、校長職を一年間務めました。その間、自分が校長会の一員であることで得られる安心感、校長としての職能向上のために開催していただいた研究会や研修会、悩んだ時や情報がほしい時に支えていただいたこと等、まさに校長会のお陰で長年にわたる学校経営を行うことができたと感じています。これからも校長会の活動が、そして校長会そのものが、各校長の学校経営を支えていく存在であり続けていけるよう、各校長に大切にしてください。ことをまとめてみます。新年度のスタートにあたり参考にしていただければ幸いです。

校長が学校経営を行う基盤となるものは、もちろんたくさんありますが、私はその中に、学び続ける姿勢（挑戦する姿勢）があると思っています。校長は、建前や前例にとらわれることなく、また外部から発信される情報を受け止めただけでなく、絶えず自分から積極的に情報を仕入れ、生徒の成長のため、達成困難と思える取組にも失敗を恐れず挑戦しながら実践を積み重ねていくことが大切です。その過程で課題が見つかった時は、校長としてやるべきこと、校長だからできること、校長にしかできないことを見極めて、下準備を



しっかりと整えたいうえで、適切なタイミングを逃さず課題解決を図る対策が必要です。

しかしながら、実際には課題解決のための次の一手を打つ決断の際に迷いが生じることもあります。特に、決断にかなりの勇気が必要な時や、その勇気もたなくてタイミングを逃してしまったと感じている時は、ますます悩みが深まります。

このような時こそ校長会の存在が大切になってきます。校長会も一つの組織です。アメリカの経営学者のチェスター・バーナードが提唱した「組織が成立するための三要素」は、「共通の目的」「協働の意欲」「コミュニケーション」ですが、三点目の「コミュニケーション」は、意外と難しいものです。皆さんの各市町校長会には、日頃から校長会で各学校の課題を持ち寄り、課題解決に向けての方策を共に探っていく、そのような活動・雰囲気があるでしょうか。何でも言い合える、特に困っていることや悩んでいることについて、声を上げやすい風通しの良い風土の醸成が図られていますか。困った時こそその校長会という意識を全校長がもち、共に支え合い、共に成長する横のつながりの深い校長会こそが、各校長の学校経営を支えます。

また、例えば各都道府県校長会の活動の中に、各市町の校長会から一人ずつ参加して、生徒指導や授業改善等、何かをテーマにして、その推進や充実を図るために協議を重ねていく活動がある場合、その委員会と市町校長会の双方のつながりが大変重要です。何度何度も行ったり来たり、を繰り返すことです。そのことよって、なかなか解決できない大きな課題の解決の糸口を見つけることができます。「コミュニケーション」がどこかで途絶えていないかを、お互いにアンテナを張っていくことが重要です。

(全日中副会長・前広島県市立広南中学校長)